

月刊 しばうら

2026 年 7 月号

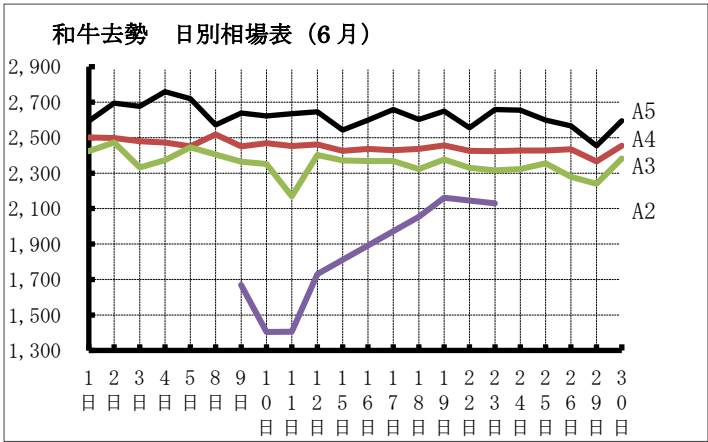
牛肉営業部

＜6 月の相場動向＞

6 月は牛肉需要が最も低迷する時期のひとつである。景気は半導体や AI 関連を背景に若干持ち直しているが、食品価格の高騰が続いており、消費者の節約志向から牛肉を手控える傾向が顕著となっている。

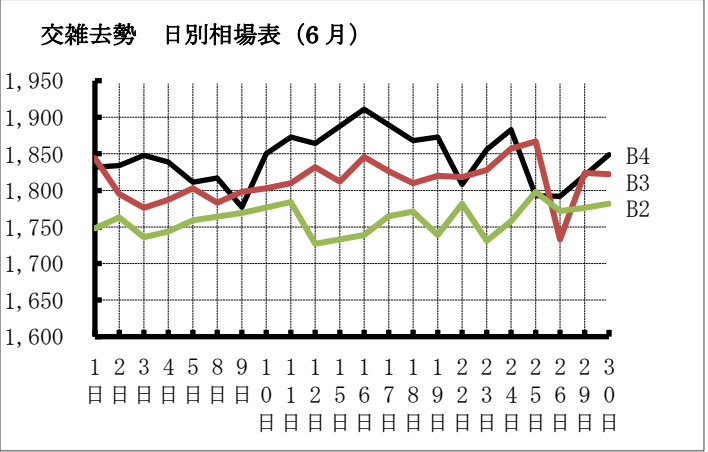
5 月の家計調査報告では、牛肉の支出金額 1,755 円（前年同月比 2.2%減）・購入量 445 g（同 6.7%減）と、豚肉・鶏肉の増加傾向に対し減少が鮮明となった。

また、相場は荷動きの悪さから対前月比では下落したが、和牛肉販売促進等支援緊急対策事業の下支えもあって、対前年比では高水準を維持した。



和牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,642 円	+214 円	108.8%	-68 円	97.5%
A4	2,450 円	+331 円	115.6%	-97 円	96.2%
A3	2,361 円	+353 円	117.6%	-109 円	95.6%
A2	1,774 円	+21 円	101.2%	-380 円	82.4%



交雑去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,847 円	+220 円	113.5%	-58 円	97.0%
B3	1,815 円	+248 円	115.8%	-57 円	97.0%
B2	1,756 円	+295 円	120.2%	-47 円	97.4%

乳牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	—	—	—	—	—
B2	1,334 円	+98 円	107.9%	-29 円	97.9%

＜7 月の牛肉輸入量予測＞

財務省が発表した輸入通関実績によると、5 月の輸入量は前年同月比 9.6%減の 4 万 3,782 t で、うちチルドが 14.1%減の 1 万 3,951 t、フローズンが 7.8%減の 2 万 9,831t となり、ともに減少した。

農畜産業振興機構によると 6 月の牛肉輸入数量は、前年同月比 0.2%増の 4 万 2,300t（チルド 0.7%減・冷凍 0.7%増）、7 月は 6.9%減の 4 万 3,700t（チルド 10.5%減・冷凍 4.5%増）と予測している。

冷蔵輸入量は、現地価格の高止まりや為替の影響を受け、主要輸入先である豪州・米国からは微増するものの、その他の国では減少が見込まれる。そのため 6 月は前年をやや下回り、7 月は前年同月を大幅に下回る予想である。冷凍輸入量は、6 月に米国産が減少するものの、豪州産は増加し、前年同月をやや上回ると予測される。7 月は米国産が前年並み、豪州産は増加する一方で、その他の国が減少するとみられることから前年同月をわずかに下回ると見込まれる。

輸入牛肉通関量		5 月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	6,895	9,353	73.7%
	米国	5,663	5,616	100.8%
	その他	1,248	1,101	113.3%
	合計	13,951	16,242	85.9%
フローズン	豪州	14,611	15,863	92.1%
	米国	11,790	10,975	107.4%
	その他	2,388	4,005	59.6%
	合計	29,831	32,186	92.7%

出典：食肉速報

単位：t

＜7 月の全国出荷頭数予測＞

農畜産業振興機構による 7 月の出荷予測頭数は、全体で前年比 92.1%の 9 万 1,700 頭で、品種別にみると和牛は 10.8%減の 4 万 7,300 頭、交雑種は 9.7%減の 2 万 600 頭、乳用種は 0.3%増の 2 万 3,300 頭と予測している。

また、東京食肉市場の 7 月のと畜頭数は 8,000 頭（前年比 2.9%減）を予定しています。

＜7 月の牛枝肉相場見通し＞

7 月は生活防衛意識が高まりから、全体として牛肉需要の大幅な回復は難しい状況にある。交雑種は輸入牛肉価格の高止まりや夏休み需要が支えとなり、3 等級を中心に底堅い相場が見込まれる。一方、和牛は 6 月からの市中在庫の多さに加え、個人消費の冷え込みが贈答商品に影響が出ている。

さらに猛暑によって焼肉やバーベキューの需要の停滞が懸念される。高級部位の販売は苦戦を強いられる一方、低級部位の需要は堅調に推移するものと予想され、相場は全体として底堅いが上値を追う動きには至らないと考えられる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,250～2,700	B4	1,700～1,800
A4	2,200～2,300	B3	1,600～1,700
A3	2,100～2,200	B2	1,600～1,650
A2	2,000～2,100		
乳牛去勢			
B3	1,250～1,350		
B2	1,200～1,250		

豚肉営業部

2026 年 5 月の全国と畜頭数は 122 万 9,739 頭（前年同月比 5.2%減）と前年を下回った。また、5 月の豚肉通関数量は 9 万 3,665t（前年同月比 3.5%増）と前年同月から増加した。内訳はチルドが 3 万 8,409 t（11.3%増）と大きく増加し、フローズンは 5 万 5,256t（1.3%減）と前年同月から微減した。

2025-2026 年の需給量と推定期末在庫						
	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
月	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
5	73,100	90,460	24,091	214,149	73,406	73,567
6	68,598	83,731	24,109	222,274	68,453	75,606
7	69,871	82,687	22,399	219,105	71,374	84,255
8	63,753	74,022	21,855	216,178	64,151	76,949
9	70,991	76,220	21,545	213,175	71,134	79,223
10	81,313	84,875	21,943	209,457	80,789	88,593
11	76,416	65,268	22,199	196,931	75,962	77,794
12	82,651	68,313	22,928	182,068	81,767	83,176
1	80,664	83,073	22,910	190,177	80,567	74,964
2	73,952	65,442	23,465	186,194	73,310	69,425
3	78,207	76,792	24,895	186,013	76,584	76,973
4	77,021	103,288	23,825	193,172	77,942	96,129
5	69,296	93,571	23,667	210,959	69,305	75,784
比	95%	103%	98%	99%	94%	103%

出典：農畜産業振興機構

比：最終月の前年同期比

単位：t

5 月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	12,664	99.5%	デンマーク	3,509	91.2%
カナダ	21,830	114.6%	スペイン	5,718	28.4%
メキシコ	3,914	142.4%	メキシコ	4,718	109.1%
			アメリカ	9,677	125.3%
			カナダ	5,054	105.2%
合計	38,409	111.3%		55,256	98.7%

単位：t

＜6 月の豚取引の推移＞

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1 日	54,700	647	624	892
2 日	57,000	670	643	995
3 日	59,700	652	627	863
4 日	62,700	647	630	699
5 日	52,000	641	621	993
8 日	—	628	617	897
9 日	61,800	627	619	908
平均	57,983/日			892/日

6 月に入り相場は上昇に転じるとみられたが、上物相場は 600 円台半ばの軟調な展開となった。梅雨入りに伴い不需要期となり、末端消費が振るわずスソ物中心の荷動きとなった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
10 日	52,700	654	621	793
11 日	60,900	634	621	910
12 日	56,700	639	622	975
15 日	51,900	643	636	772
16 日	61,600	666	649	956
17 日	57,300	672	651	653
18 日	60,800	665	652	792
19 日	55,300	685	653	936
平均	57,150/日			848/日

全国的に出荷頭数は減少傾向となり、5 万頭台前半の日もみられたことで相場は徐々に上昇傾向となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
22 日	59,200	665	653	814
23 日	61,600	673	657	958
24 日	58,900	701	679	736
25 日	64,400	674	662	929
26 日	55,700	705	684	936
29 日	60,800	711	700	862
30 日	62,700	777	758	904
平均	60,471/日			877/日

不需要期で末端の荷動きは芳しくなかったが、需給バランスによって相場は 600 円台後半から 700 円台の高値安定となった。

＜7 月の豚枝肉相場見通し＞

農林水産省による令和 8 年 7 月の肉豚出荷予測では 135 万 1,000 頭（前年比 105.0%）と予測している。当市場の 7 月集荷予定せり頭数は 1 万 8,000 頭、1 日あたりでは約 818 頭を見込んでいる。

農畜産業振興機構によると 7 月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 8 万 7,200t（同 105.5%）、内訳は冷蔵輸入量が 3 万 6,500t（同 106.8%）、冷凍輸入量は 5 万 700t（同 104.5%）と予測。

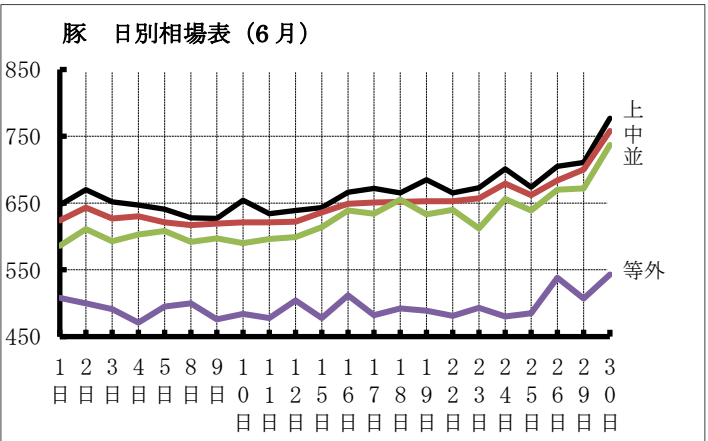
冷蔵品輸入量は、主要輸入先である米国、カナダ、メキシコからの輸入量の増加が見込まれ、前年同月をかなりの程度上回ると予測する。なお、3 カ月平均でも前年同期をかなり大きく上回ると予測される。

冷凍品輸入量はアフリカ豚熱発生によるスペイン産の輸入一時停止措置の影響により、スペイン産の減少が見込まれる一方、代替としてブラジル、米国、欧州各国等からの輸入量の増加が見込まれること等から、前年同月をやや上回ると予測される。同様に 3 カ月平均でも前年同期をわずかに上回ると予想される。

気象庁の予報によると今年の 7 月は平均気温が全国的に高いとしており、猛暑による肥育豚の発育不良に加え、東北や関東では疾病による影響もあって、実際の出荷頭数は農水省予想を更に下回る可能性が高い。

需要の見通しについては、7 月は不需要期となり、物価高による消費者の生活防衛意識の高まりから中部位の売れ行きは鈍ると見込まれる。一方、スソ物やひき材の引き合いは継続し、4 週目以降の学校給食休止期間もスソ物の需要は底堅く推移すると予測される。

以上のことから当市場の上物平均価格は 750 円前後、中物平均価格 730 円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19
東京食肉市場株式会社
TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127